

平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

公益事業実施の概要

新材料及びこれに関連する科学技術分野における**公益事業 1**(研究助成、国際交流助成、国際シンポジウム助成の各事業)並びに**公益事業 2**(科学技術啓蒙助成事業)について計画通り実施した。

公益事業 1

1. 研究助成

(1) 平成 29 年度(第 29 回)研究助成

昨年 3 月の第 16 回理事会で承認・決定した採択者 12 名に助成した。各研究テーマへの助成額は最高 200 万円、総額 2400 万円。なお、応募総数は 138 件であった。

(2) 第 20 回研究成果報告会

平成 28 年度研究助成採択者 12 名のうち 11 名(1 名は事情により翌年に繰り延べ)による研究成果報告会を、平成 29 年 12 月 7～8 日に(株)トクヤマ・徳山製造所において開催した。

(3) 平成 30 年度(第 30 回)研究助成

公募期間は平成 29 年 8 月 1 日から 9 月 29 日、応募総数は 118 件であった。選考委員による書類審査を経て、平成 29 年 12 月 7 日の選考委員会において採択候補者 12 名を選出した。第 20 回理事会で承認・決定する。

2. 国際交流助成

(1) 平成 29 年度(第 30 回)国際交流助成

公募期間は平成 29 年 2 月 1 日から 3 月 31 日、応募総数は 39 件であった。選考委員による書類審査により採択候補者 12 名を選出し、昨年 5 月の第 17 回理事会で承認・決定した。助成額は最高 25 万円、総額 200 万円。

(2) 平成 30 年度(第 31 回)国際交流助成

公募期間は平成 30 年 2 月 1 日から 3 月 30 日。

3. 国際シンポジウム助成

(1) 平成 29 年度(第 28 回)国際シンポジウム助成

昨年 3 月の第 16 回理事会で承認・決定した 4 件に助成した。助成額は最高 25 万円、総額 90 万円。

(2) 平成 30 年度(第 29 回)国際シンポジウム助成

公募期間は平成 29 年 8 月 1 日から 9 月 29 日、応募総数は 15 件であった。選考委員による書類審査を経て、平成 29 年 12 月 7 日の選考委員会において 9 件が助成候補として選出された。第 20 回理事会で承認・決定する。

公益事業 2

1. おもしろワクワク化学の世界展への助成(平成 29 年度(第 25 回))

昨年 3 月の第 16 回理事会で承認、決定された日本化学会中国四国支部主催の「おもしろワクワク化学の世界'17 山口化学展(平成 29 年 8 月 25 日～27 日(小野田市))及び 17 広島化学展ミニ版(平成 29 年 7 月 1 日(広島市))に助成した。助成額 230 万円。

2. 少年少女発明クラブへの助成(平成 29 年度(第 11 回))

平成 29 年度も山口県内 7 つの少年少女発明クラブへ助成した。助成額は、1 クラブ 5 万円、総額 35 万円。

平成29年度（第29回）研究助成 採択者（期間：平成29年6月1日より1年間）

（五十音順）

No	氏名	所属（申請時）	役職 （申請時）	助成額 （万円）
01	井川和宣	九州大学 先導物質化学研究所	助教	200
02	内田さやか	東京大学 大学院総合文化研究科	准教授	200
03	木口学	東京工業大学 理学院化学系	教授	200
04	近藤美欧	分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域	助教	200
05	杉原伸治	福井大学 学術研究院工学系部門	准教授	200
06	鷹巣守	大阪大学 大学院工学研究科	教授	200
07	中村貴志	筑波大学 数理物質系	助教	200
08	廣戸聡	名古屋大学 大学院工学研究科	助教	200
09	藤本裕	東北大学 大学院工学研究科	助教	200
10	増田貴史	北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究	助教	200
11	丸山達生	神戸大学 大学院工学研究科	准教授	200
12	守谷せいら	中部大学 工学部	助教	200

平成29年度（第30回）国際交流助成 採択者（期間：平成29年6月1日より1年間）

（五十音順）

No	氏名	所属（申請時）	役職 （申請時）	助成額 （万円）
01	稲木信介	東京工業大学 物質理工学院	准教授	10
02	岡田友彦	信州大学 工学部	准教授	25
03	川崎常臣	東京理科大学 理学部	准教授	15
04	小村賢一	岐阜大学 工学部	准教授	20
05	田邊豊和	神奈川大学 工学部	助教	20
06	辻村清也	筑波大学 数理物質系	准教授	25
07	徳留靖明	大阪府立大学 工学部	准教授	25
08	野上敏材	鳥取大学 大学院工学研究科	准教授	25
09	波多野学	名古屋大学 大学院工学研究科	准教授	15
10	三友秀之	北海道大学 電子科学研究所	助教	20

平成 29 年度(第 28 回)国際シンポジウム助成 (開催順)

1. 第 6 回光誘起相転移に関する国際会議

助成金額 25 万円

主催団体 東北大学・大学院理学研究科

開催時期 平成 29 年 6 月 4 日～9 日

開催場所 仙台国際センター (仙台市)

規模 参加者 101 名 (国内 57 名、海外 44 名)

目的と成果 光誘起相転移は、物質の光学特性、誘電性、電気伝導性、磁性など巨視的性質が光やテラヘルツ波の照射によって瞬時に変化させる現象として 30 年以上に渡り精力的な研究が続けられている国際的な先端研究分野である。2000 年以来、欧州と日本を中心に 5 回の国際会議が開催されてきたが、第 6 回は、「電磁場と物質の強い結合(Strong-field matter coupling)とそのナノ時空間観測」を主題にして仙台で開催された。K. Nelson 教授、十倉好紀教授ほか多数の内外のフロントランナー(講演者の半数が国際参加者)を招き、この分野の最先端が議論された。

2. 第 29 回不斉に関する国際会議

助成金額 25 万円

主催団体 第 29 回不斉に関する国際会議組織委員会

開催時期 平成 29 年 7 月 9 日～12 日

開催場所 早稲田大学国際会議場 (東京都新宿区)

規模 参加者 355 名 (国内 270 名、海外 85 名)

目的と成果 本国際会議は、分子・分子集合体の「キラリティー(不斉)」に関する諸問題もついで、薬学・農学・医学・理学・工学などの立場を乗り越え、科学と技術の両面から講演・発表・討論することを目的として開催されてきた。29 回目となる今回は、7 年ぶり 4 度目の日本開催であり、初日は Short Course (技術セミナー) から始まり、開会式およびキラリティー・メダル受賞講演を行った。2 日目より招待講演(36 件)、一般講演(45 件)、ポスター発表(184 件)が行われ、キラリティーに関する様々な立場の研究者達による活発な討論が行われた。

3. IUPAC 第 17 回高分子錯体国際会議

助成金額 25 万円

主催団体 IUPAC 第 17 回高分子錯体国際会議組織委員会

開催時期 平成 29 年 8 月 28 日～31 日

開催場所 早稲田大学大隅記念講堂 (東京都新宿区)

規模 参加者 175 名 (国内 103 名、海外 72 名)

目的と成果 機能性高分子の一群である高分子錯体の科学と技術に関する国際会議(IUPAC 第 17 回高分子錯体国際会議, IUPAC 17th International Symposium on Macromolecular Complexes (MMC-17))を開催し、高分子錯体および関連する超分子、バイオマテリアル、触媒高分子、複合 dendrimer、有機エレクトロニクス、金属含有ポリマー、分子集合体、ソフトマテリアルなどの各分野における研究動向について内外の研究者らと詳細に議論した。参加者 20 か国 175 名を得て、会期を通じて大変盛況であった。

4. 第9回マルチフェロイック材料に関する APCTP ワークショップ

助成金額 15万円

主催団体 アジア太平洋理論物理センター

開催時期 平成29年11月9日～11日

開催場所 東京大学柏キャンパス（柏市）

規模 参加者109名（国内68名、海外41名）

目的と成果 本会議は、磁性と誘電性が強く相互作用した物質・材料を意味するマルチフェロイクスに関する国際会議で、毎年、アジア太平洋地域において持ち回りで開催されている。第9回となる今回の会議は東大柏キャンパスにおいて開催された。23件の招待講演、6件の一般口頭発表、56件のポスター発表が実施され、さらに当該分野の今後の方向性を議論する特別セッションを実施するなど、活発な議論が行われた。多くの参加者から、研究の新たな方向性を見出せた、新たな共同研究への足掛かりが得られたなど好意的な意見が寄せられ、成功裏に終了した。

平成 29 年度(第 25 回) 科学技術啓蒙助成

行事名	おもしろワクワク化学の世界 '17 山口化学展
助成額	200 万円
主催	日本化学会中国四国支部
共催	(公財) 徳山科学技術振興財団、山口東京理科大学、山口大学
後援	山口県教育委員会、山陽小野田市教育委員会、宇部市教育委員会、山口市教育委員会、下関市教育委員会、NHK 山口放送局、KRY 山口放送、t y s テレビ山口、yab 山口朝日放送、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞西部本社、山口新聞、中国新聞、宇部日報、エフエム山口、エフエムきらら
大会委員長	江幡孝之(広島大学大学院理学研究科教授、平成 29 年度日本化学会中国四国支部支部長)
実行委員長	鬼村謙二郎(山口大学大学院創成科学研究科)
実行委員	山口大学工学部、山口大学理学部、山口東京理科大学工学部、宇部興産(株)、東ソー(株)、(株)トクヤマ、徳山高等学校の各関係者
開催期間	平成 29 年 8 月 25 日(金)～8 月 27 日(日) 3 日間
場所	おのだサンパーク 2 階大催事場(山陽小野田市)
展示ブース	23 ブース
参加対象者	小中学生及びその保護者、高校生、一般 (3,499 名)
行事概要	化学展は、1993 年から毎年中国・四国地区の大学が各県持ち回りで実施しており、山口県での開催は、2008 年以降 9 年ぶり、4 回目の開催となる。次世代を担う子供たちに“わたしたちを支える化学技術”の重要性、不思議さ、面白さ、を分かりやすく伝えることを目的として開催した。特に山口県には多くの化学系企業が立地していることから、山口県内の化学系企業 7 社にも出展していただき、大学関係と合わせて計 23 ブースを開設した。3 日間で計 3500 人の来場者があり、化学や山口県の魅力を再発見してもらえる機会を提供することができた。
行事名	おもしろワクワク化学の世界 '17 広島化学展 - ミニ版 -
助成額	30 万円
主催	日本化学会中国四国支部
共催	(公財) 徳山科学技術振興財団、広島市こども文化科学館、広島大学
大会委員長	江幡孝之(広島大学大学院理学研究科教授、平成 29 年度日本化学会中国四国支部支部長)
実行委員長	関谷亮(広島大学大学院理科学研究科准教授)
実行委員	広島大学の関係者
開催期間	平成 29 年 7 月 16 日(日)
場所	広島市こども文化科学館(広島市)
展示ブース	2 ブース(演習実験、実験体験)
参加対象者	小・中学生及びその保護者、高校生、一般(100 名)
行事概要	体験実験(「葉っぱの色を分けてみよう～光合成って何?～」、「くだものと野菜のビタミンを調べよう」と展示実験(「スライムをつくろう」、「色が変わる不思議な液体」)をおこなった。体験実験では各 1 名の大学院生を配置し、児童やその保護者にガラス器具の使い方を含め、実験全般について丁寧に解説しただけでなく、児童や保護者からの質問にもわかりやすく解説したことが、好評であった。

事業名	少年少女発明クラブへの助成
助成額	1クラブ 5万円(7クラブ合計 35万円)
主催	(一社)山口県発明協会、山口県内市町村教育委員会
共催	山口県内市町村、同公共施設、同商工会議所 他
運営組織	各クラブの企画運営委員会
活動期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 (1年間)
場所	山口県内公共施設
参加対象者	小中学生及びその保護者
行事概要	少年少女発明クラブは、現在、全国に 218 のクラブがあり、約 8,500 名のこどもたちが、約 2,800 名の指導員のもと科学的な原理に基づく工作実習、創作活動等の体験学習を行っている。山口県では現在 7 クラブが活動している。(下関市、山口市、宇部市、防府市、周南市、柳井市、田布施町)本活動は、子供達に地域の特徴を生かした創意工夫に基づく創作活動の場を提供し、作品製作や実験を通じて、アイデアを形にする能力と技術を持った創造性豊かな人間形成に寄与することを目的として活動し、有意義な成果が得られている。